

山崎浩子

愛が
偽りに
終わるとき



愛が
偽りに
終わるとき

山崎浩子

Yamazaki Hiroko

文藝春秋

山崎浩子（やまさき・ひろこ）

1960年生まれ。新体操の名門・鹿児島純心女子高校に入学と同時に新体操を始める。東京女子体育短大入学（のちに大学に編入）後は全日本選手権で個人総合5連勝を果たし、新体操ブームの火つけ役となる。84年ロサンゼルス・オリンピックで8位入賞。その後現役を退き、新体操のインストラクターとなる。また、スポーツライターとして雑誌「Number」等に執筆、講演やテレビ出演でも活躍中。著書に『山崎浩子の楽しい新体操』（小峰書店）、『失敗という名のレッスン』（講談社）がある。

愛が偽りに終わるとき

一九九四年三月十五日 第一刷

著者 山崎浩子

発行者 堤 堯

発行所 株式会社 文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町三―二三
電話 東京（三三六五）二二二一

郵便番号 一〇二

印刷所 大日本印刷

製本所 加藤製本

定価はカバーに表示してあります

*万一落了丁の場合は送料当社負担でお取替えいたします。
小社営業部宛お送りください。

愛が偽りに終わるとき●目次

第二章——「神の子」になる

終わりの始まり	15
手相を見たいと言った訪問者	16
「体調が悪いのは先祖のせいだ」	18
「霊眼」の開けた青年との出会い	22
いちばん高い印鑑を買う	24
ビデオ学習に通う	26
白亜のマンションの霊能師	29
チンプンカンプンだった「先生」の話	31
私の中に「サタン」の血が流れている	33
私のために父が犠牲になった	35
三人姉妹の末っ子として育つ	36
娘たちの国体出場が父の願い	39

最愛の父が逝った 41

「お父さんのために学びなさい」 43

ビデオ学習から講義学習へ 45

初めて明かされた「統一教会」の名 46

私は統一教会がきらいだった 48

信仰のために恋人と別れる 51

「もう恋なんてしない」 53

文鮮明という人 56

文師のイメージが新体操の恩師に重なる 57

真冬の水行をこなす 61

献金も修行のうち 63

第二章——盲信者

“お父様”の国、韓国を訪問 69

本名を隠して修練会に 71

感動の涙にくれた四日間 73

いつか新体操を捨てる日が来るのか 76

サタンが私を金縛りにする 80

神の最高の祝福——合同結婚式 83

まだ自分を投げだす覚悟はない 85

一週間の断食修行に挑戦 87

もうひとつの恋 91

「この人に統一原理を聞かせたい」 93

愛する心を無理やり閉ざす 95

合同結婚式へのためらい 97

母の死がうながした決意 99

マッチングという名の結婚 101

週刊誌にかぎつかれた 104

もう覚悟を決めるしかない 107

騒ぎは発売日の前日から始まった 109

大混乱をきたした事務所 111

「信仰告白」こそ私の使命 114

記者会見に臨む 116

「その結婚だけはやめなさい」 119

第三章——神が選んだ伴侶

「永遠の伴侶」に会う 123

歓待してくれたご両親 127

スクープを狙うテレビ局に遭遇 129

リポーターの反撃をくった「婚約会見」 132

なぜ彼らは神の摂理の邪魔をするのか 134

「拉致・監禁」の危険がある」 138

怒りにふるえたカメラの前での墓参り 140

人の不幸を喜ぶ神経がわからない 142

合同結婚式に出発——金浦空港大混乱 145

祝福の日——「万歳」の大合唱の中で 147

靈感商法、ニセ募金、強制献金は事実なのか 150

「山崎浩子は生意気だ」 153

飯星景子さんが教会との決別を宣言 155

信仰を捨てた人々の末路とは 157

迫害がさらに決心を固くする 158

誰も祝ってくれない披露宴 161

部屋にコイが泳ぐ文夫妻の豪邸 164

スクールだけはやめたくない 167

入籍は母の一周忌まで延期 169

教会問題に終始した両家の顔合わせ 170

「拉致・監禁」が始まった 174

第四章——暴かれた嘘

“反牧”との戦い 179

無言の抵抗 181

「こんな話し合いじゃない」 183

反撃のシナリオづくり 186

元教会員牧師の脱会理由 189

脳天を打った衝撃の一文 192

学歴コンプレックスから出た経歴詐称 194

次々と検証される新事実 197

思考回路はコントロールされていた 199

マニュアルで動く信者たち 202

頭の中に二人の私がいる 205

脱会を決意 206

第五章——悪夢は消えた

信者はなぜ金集めに奔走するか 208

自らはずしたくすり指の婚約リング 211

被害者であり加害者でもある狂気の集団

213

親友を入信させた悔恨 215

二人でかなえた新体操スクールの夢

なんとかしてT子と連絡をとりたい

頭の整理のために手記を書く 222

221 217

脱会記者会見 227

勅使河原さんに宛てた一通の手紙 228

親友がうけたショックとは 232

T子の統一教会への抵抗 235

教会側の必死の搜索 237

「自己犠牲」と「出世」の矛盾 240

T子を利用するための執拗な説得工作 242

待っていてくれたスタッフたち 245

勅使河原さんとの再会 247

別れの言葉は「またはないよ」 250

“愛”とは両親と多くの人に教えられるもの 252

マインド・コントロールの恐ろしさとは 255

霊感商法に励むのはまじめだからこそ 257

今、生かされていることに感謝する 258

あとがき 261

装幀・装画
坂田政則

愛が偽りに終わるとき

第二章

「神の子」になる

